

湖上に飲す（蘇軾）

水光激灩晴偏好 山色空濛雨亦奇
若把西湖比西子 淡粧濃抹総相宜

水光 激灩として 晴れ 偏えに 好く

通釈 西湖の雨の景色を西施の美になぞられて詠ったもの。

山色 空濛として 雨も 亦 奇なり

語釈 ※激灩Ⅱ水面がきらめくさま。 ※空濛Ⅱぼんやりけぶっているさま。 ※奇Ⅱすばらしい ※西湖Ⅱ杭州の町の西にある湖。 ※西子Ⅱ西施のこと。 春秋時代、越の国の絶世の美女。 ※淡粧Ⅱ薄い化粧。 ※濃抹Ⅱ濃い化粧。

若し 西湖を 把つて 西子に 比せば

通釈 湖上を照らす日の光で、きらきらと水面が輝く。

淡粧 濃抹 総て 相宜し

晴れた西湖の景色は美しい。あたりの山がぼんやりとけぶって見える雨の西湖もまた、格別な趣があつてよい。もしも、この西湖のさまを、あの美女の西施に比べて見るならば、薄化粧でも、濃い化粧でもどちらも似合う